

法律クリアの 広告コピー講座

◇ 3 ◇

今週の広告コピー参考実例

- 肌の奥深くに働きかけ、肌自らがコラーゲンをつくり出す力を高めます
- 通常、肌に浸透しないコラーゲンもヒアルロン酸もすべて独自の浸透テクノロジーで肌の奥まで届けます

主に、エイジングケアを目的とした化粧品（美容液やクリームなど）の広告に、化粧品成分が肌へ浸透し、肌の生理的機能をアップさせ、シワ等を改善、解消することを標ぼうするものがECサイトで見受けられます。

今回は上の参考実例のようなフレーズを見つけました。

薬事法において、化粧品は「皮ふ深部（細胞レベル）での生理代謝機能に影響を与えて、加齢による影響を防ぐものではない」と定められています。

そのため、化粧品成分の肌への浸透を表現する場合は、浸透する部位が「角質層（角層）」の範囲内であることを併記する必要があります。

ですので、「肌へ浸透」という表現では、あいまいな表示とみなされます。「肌の奥深くへ」「肌の内側から」といった表現や、細胞レベル（角質層を除く表皮、基底層、真皮、皮下組織等

化粧品成分の浸透を表現できるのは「角質層」まで

久保京子 プロフィール



86年慶応義塾大学文学部卒業後、花王株式会社に入社。07年から財団法人日本産業協会にて、電子商取引モニタリング調査に携わる。09年にネットショップの広告表記や顧客サービスのコンサルティングを行う株式会社フィデスを設立、代表取締役社長に就任。

を含む)の表現をすることは、化粧品の定義や効能効果の範囲を逸脱することになるので、NG表現となっています。

また、シワ予防・解消、若返り・老化防止、顔痩せ効果等の趣旨の表現は、化粧品等の効能効果の範囲を逸脱するので、こちらもNGです。

類似する「治癒、回復、改善」等の表現は、すべて医薬品に対して用いられる言葉なので、こちらも使ってはいけません。

化粧品成分の「浸透の部位」を明確にして、肌を「改善する」のではなく、肌に「うるおいやハリを与える」という表現が適切です。

次の表現を参考にしてみてください。

- 「角質層へ浸透」
- 「角質層のすみずみへ」
- 「うるおい&ハリ・弾力をサポート」
- 「乾燥やハリ不足が気になる肌に、ワンランク上のうるおいを」
- 「ふっくらとしたハリ肌に整えます」

(毎週掲載)